

2020年 12月期

第2四半期決算説明資料



ダイトロン株式会社

証券コード：7609

連結決算概要について (業績結果および業績予想)



四半期業績推移



■ 第2四半期累計

売上高 **28,630百万円**

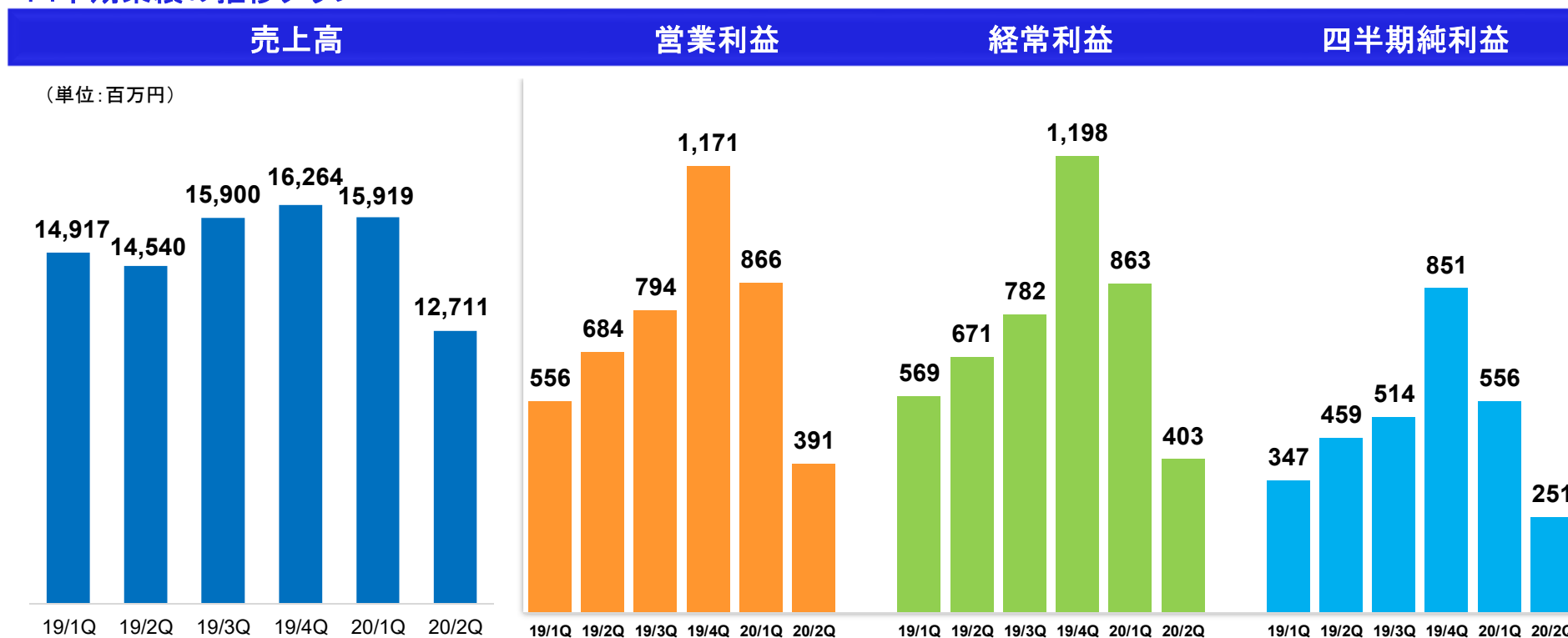
(前年同期比 97.2%)

■ 営業利益 **1,257百万円**
(前年同期比 101.4%)

■ 経常利益 **1,266百万円**
(前年同期比 102.1%)

■ 四半期純利益 **807百万円**
(前年同期比 100.2%)

四半期業績の推移グラフ

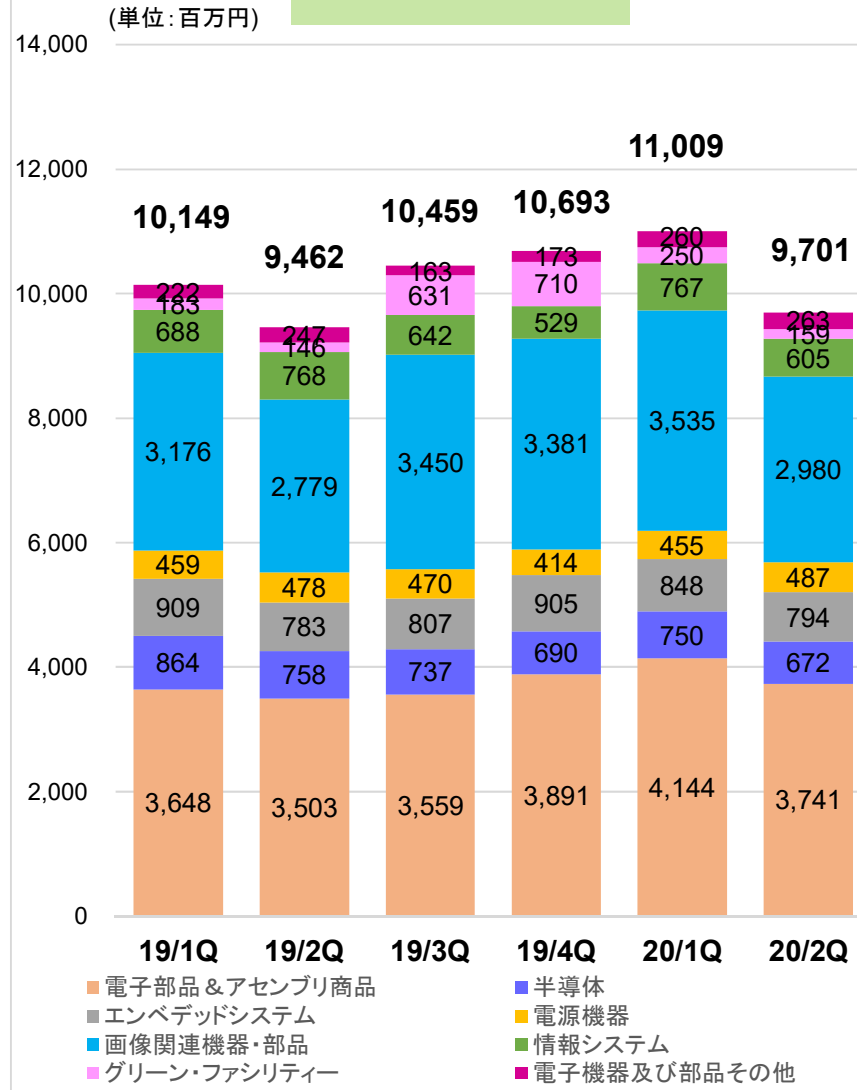


(単位:百万円)

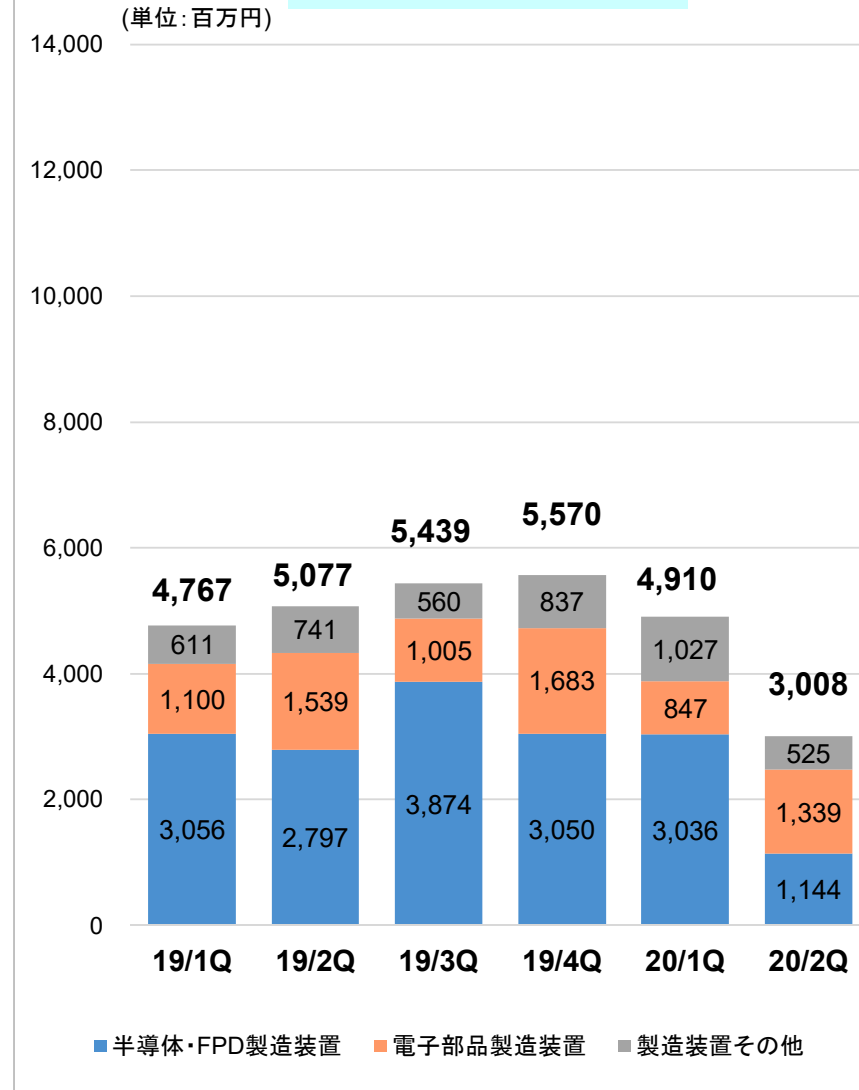
商品セグメント 四半期別業績推移



電子機器及び部品



製造装置



連結財政状態 前期比較

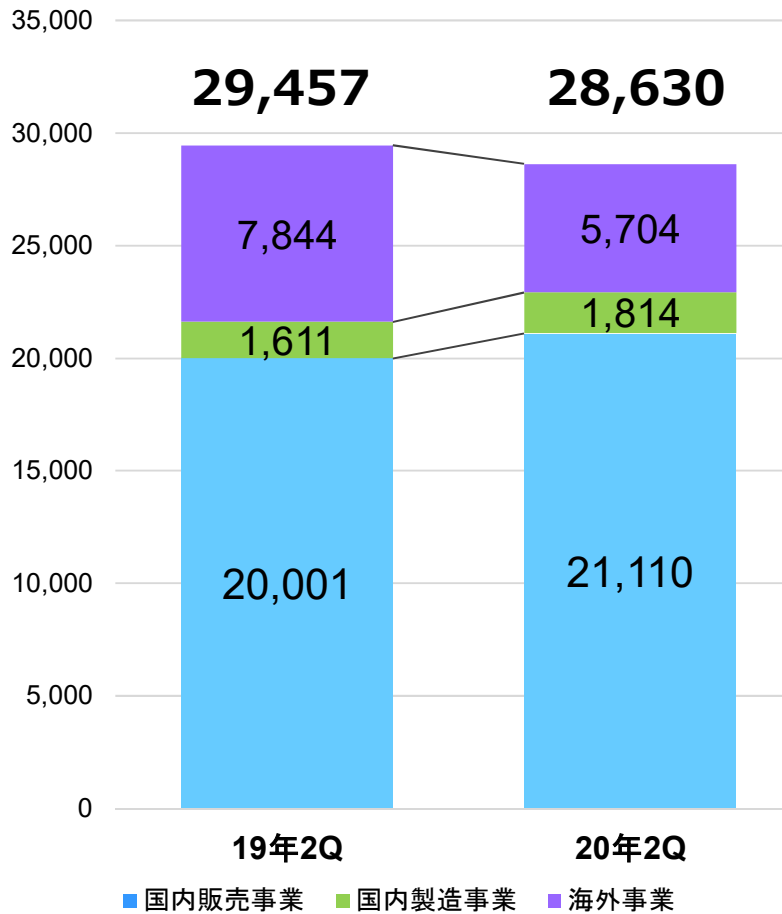
(百万円)	2019年12月期	2020年12月期 第2四半期	増減額
総資産	45,757	45,852	95
負債合計	26,992	26,862	△130
自己資本	18,762	18,986	224
純資産	18,765	18,989	224
自己資本比率	41.0%	41.4%	0.4pt
一株当たり純資産 (円 銭)	1,691.87	1,711.69	19.82

報告セグメント別概況推移



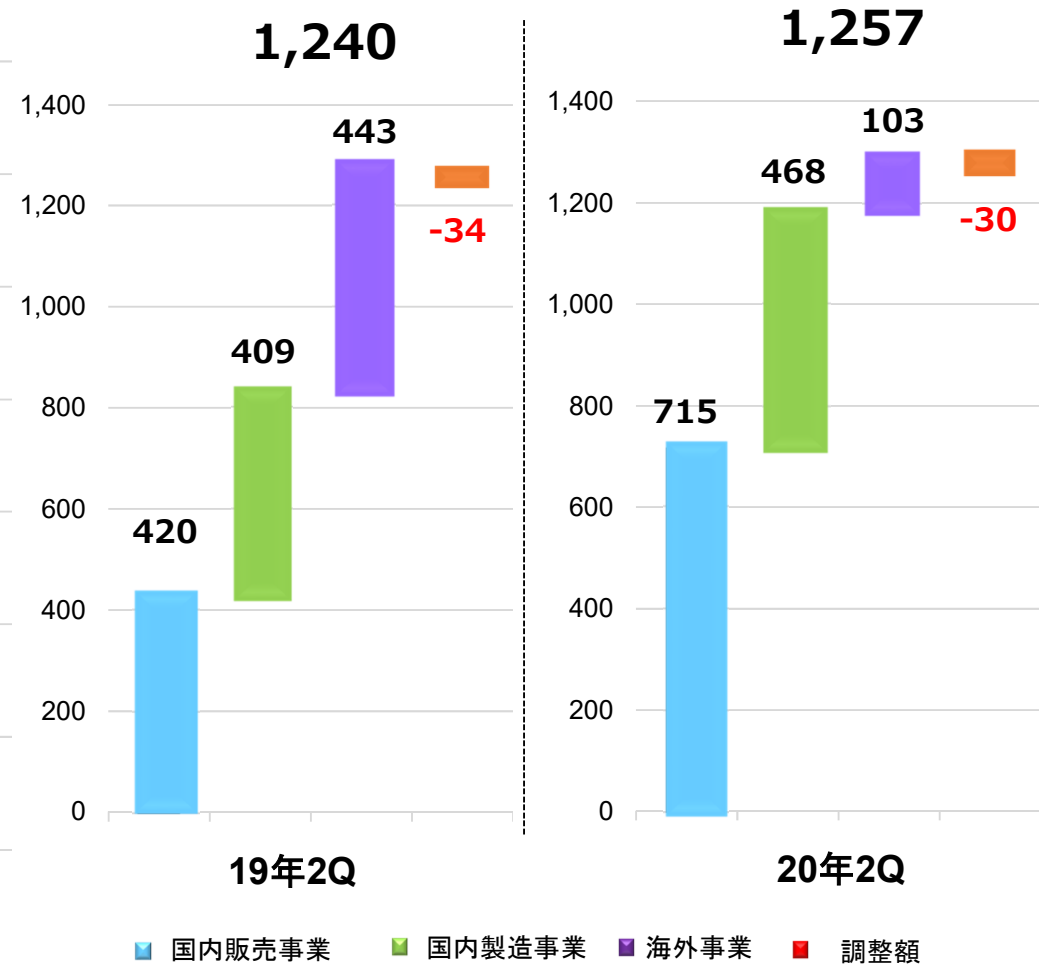
(単位：百万円)

売上高



(単位：百万円)

営業利益



(注) セグメント利益又は損失の調整額には、セグメント間取引消去及び各報告セグメントに配分していない全社費用が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない販売費及び一般管理費です。

当社の事業構造

2020年2Q累計実績



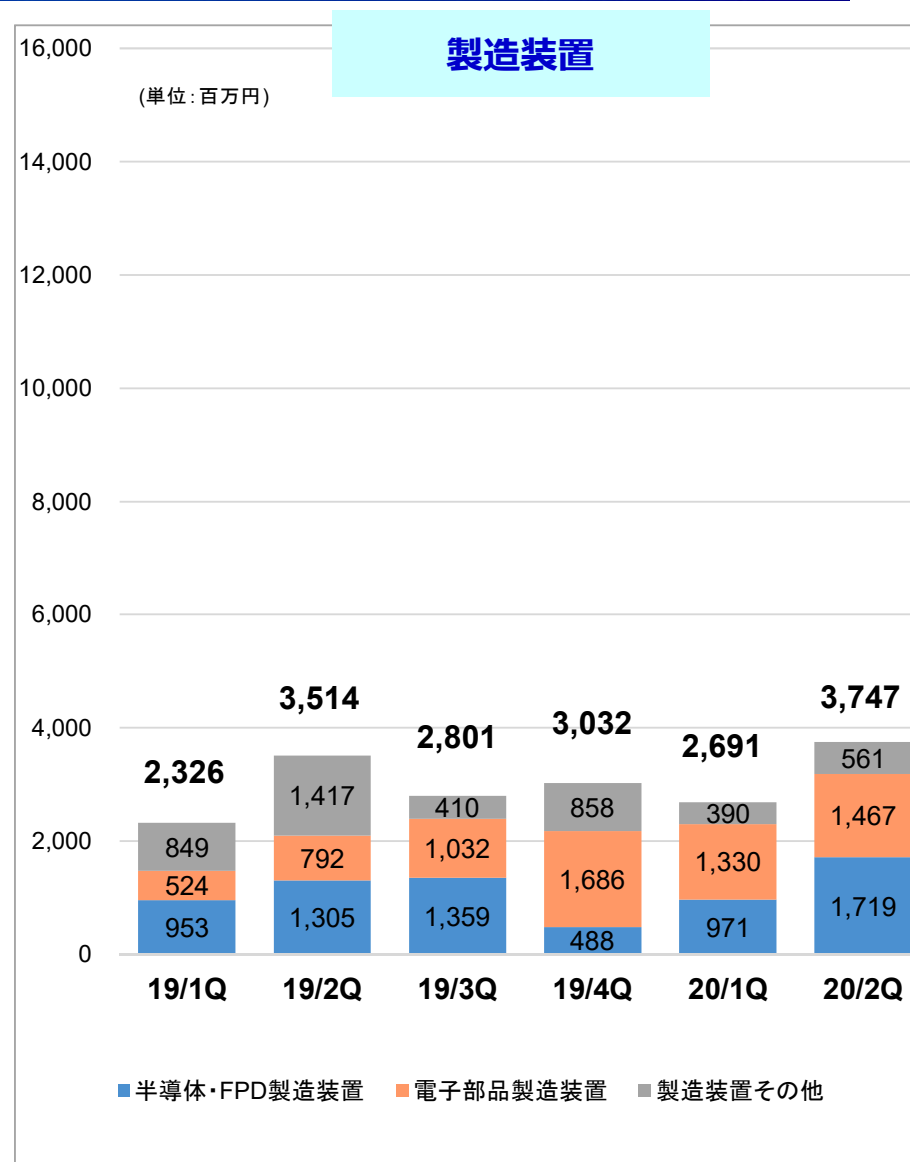
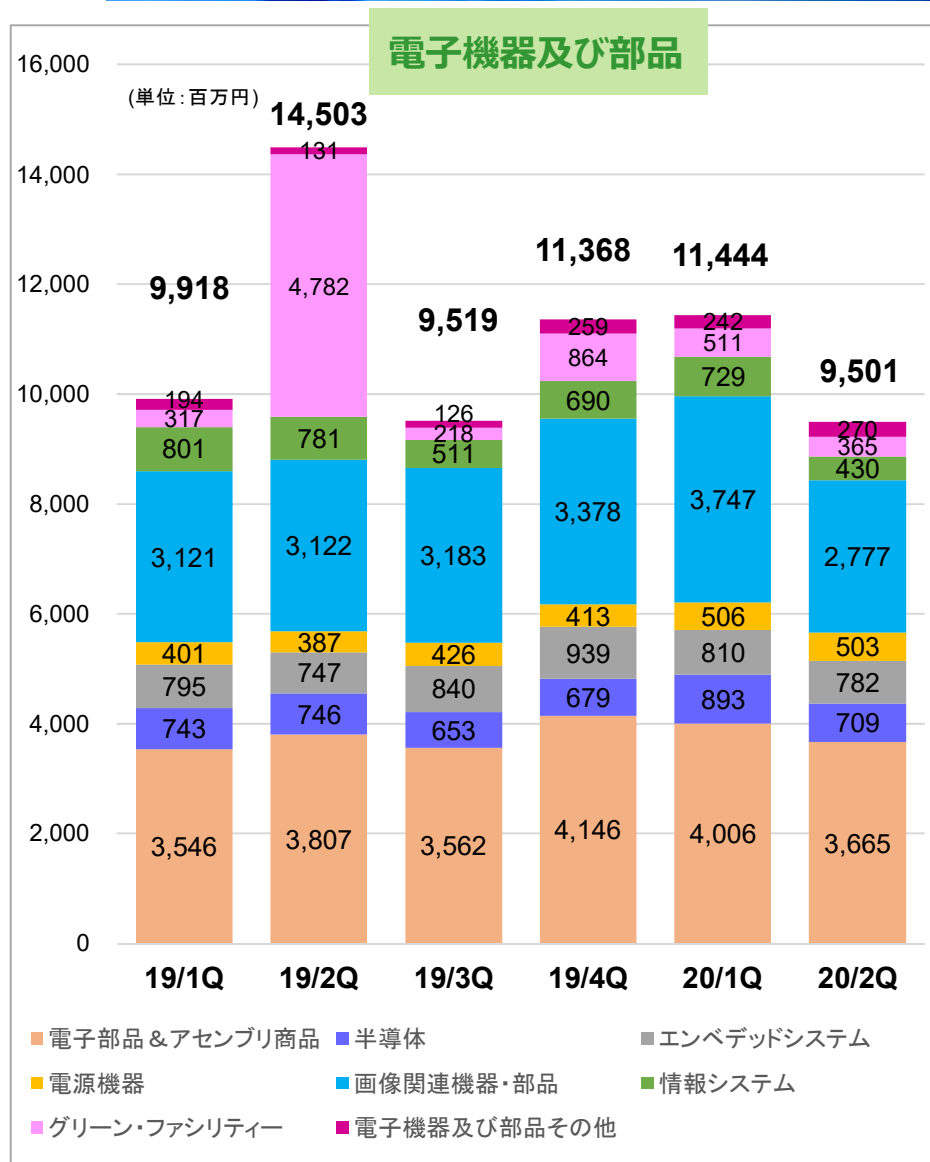
事業	商品セグメント別	売上高構成比	総利益率	オリジナル 製品比率	海外売上比率
電子機器・部品	電子部品 & アセンブリ商品	27.5% (前年同期 24.3%)	23.9% (前年同期 24.3%)	19.6% (前年同期 20.4%)	北米 1.4% (前年同期 3.0%)
	半導体	5.0% (前年同期 5.5%)	17.7% (前年同期 19.0%)		
	エンベデッドシステム	5.7% (前年同期 5.7%)	14.5% (前年同期 13.6%)		
	電源機器(グリーン・ファシリティー含む)	4.7% (前年同期 4.3%)	26.8% (前年同期 26.3%)		
	画像関連機器・部品	22.8% (前年同期 20.2%)	15.0% (前年同期 15.1%)		欧州 0.4% (前年同期 1.3%)
	情報システム	4.8% (前年同期 4.9%)	26.2% (前年同期 23.6%)		
	電子機器及び部品のその他	1.8% (前年同期 1.6%)	15.3% (前年同期 4.0%)		
製造装置	半導体・FPD製造装置	14.6% (前年同期 19.9%)	19.1% (前年同期 16.7%)	19.6% (前年同期 20.4%)	アジア 18.2% (前年同期 22.9%)
	電子部品製造装置	7.6% (前年同期 9.0%)	26.8% (前年同期 27.9%)		
	製造装置その他	5.5% (前年同期 4.6%)	13.7% (前年同期 18.0%)		
	全体	100.0%	20.1% (前年同期 19.8%)	19.6% (前年同期 20.4%)	20.0% (前年同期 27.1%)

は、当社オリジナル製品を含んだ商品セグメントとなっております。

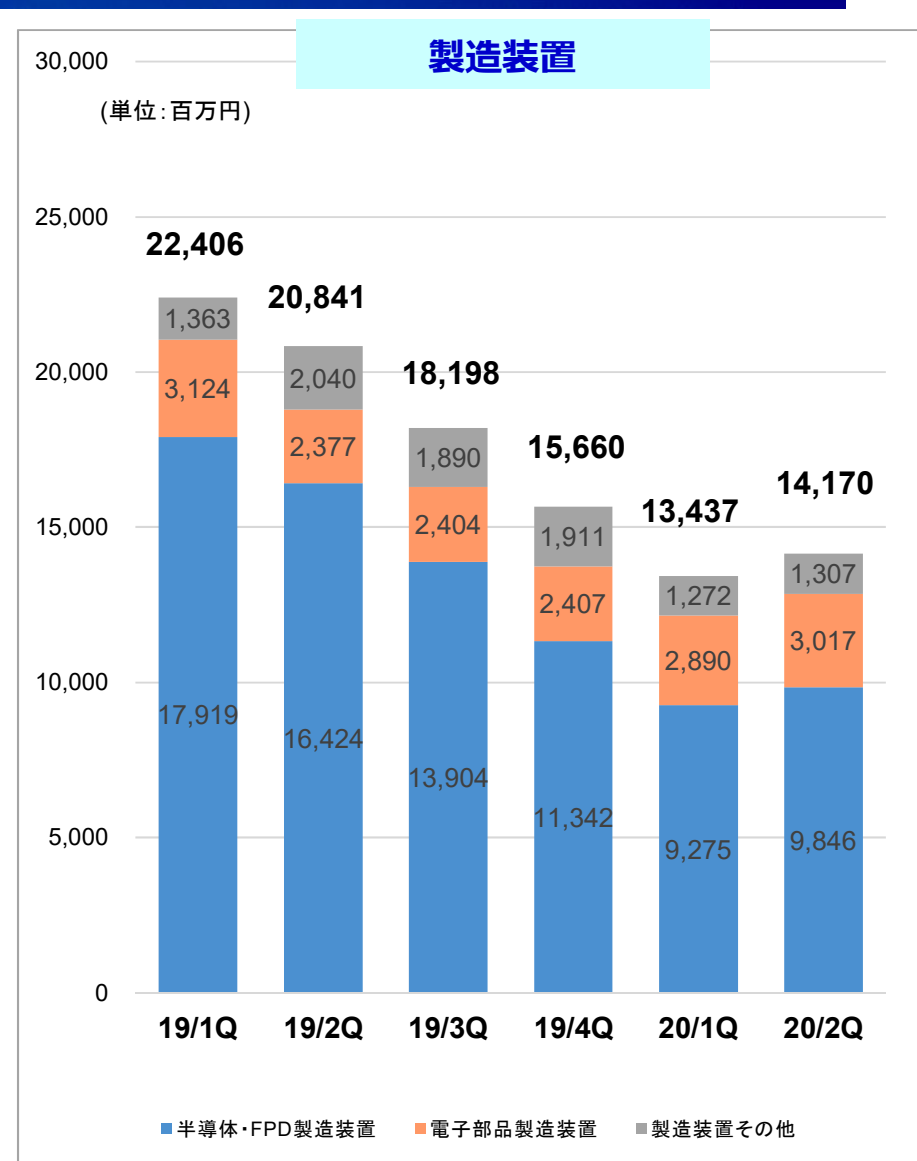
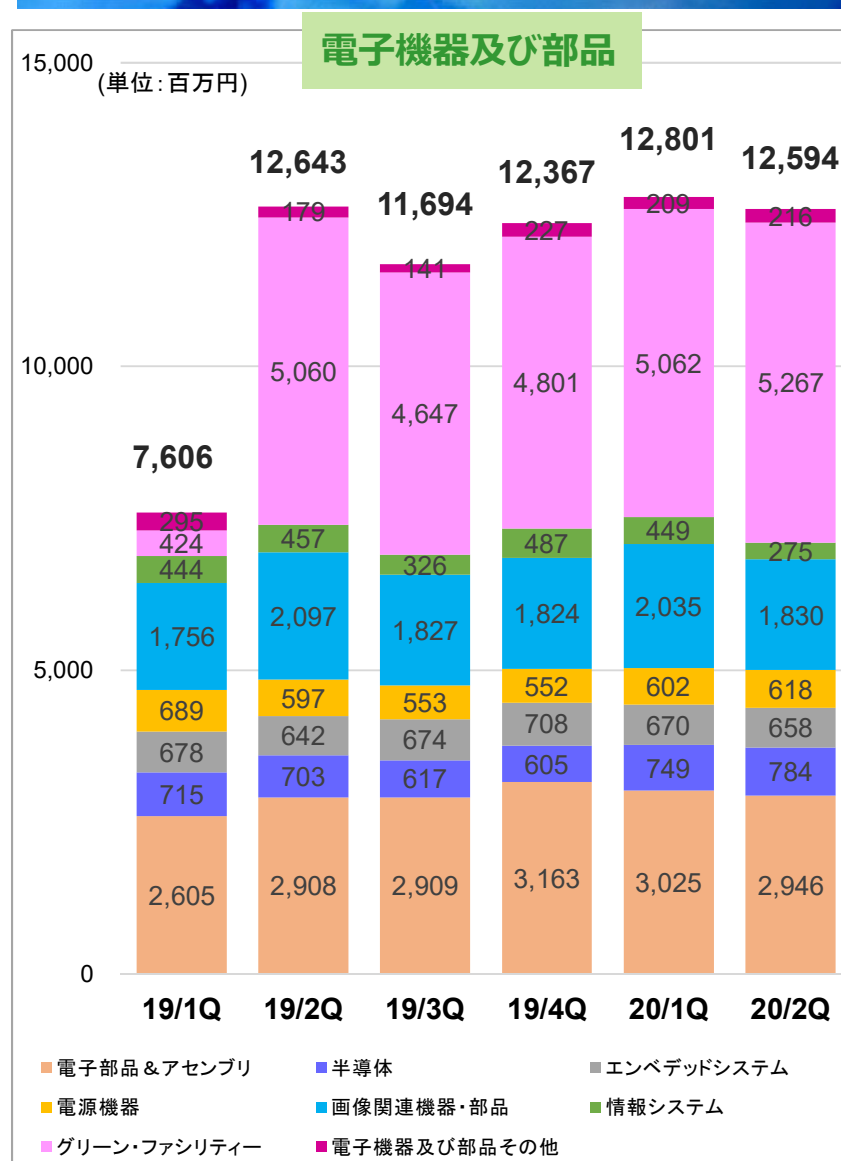
地域別 前年同期比較 売上高

(百万円)		2019年12月期 第2四半期	2020年12月期 第2四半期	増減額
国	内	21,477	22,910	1,433
海	外	7,980 (27.1%)	5,720 (20.0%)	△2,260 (△7.1pt)
	() 内は売上高比率			
	北 米	869	410	△459
	欧 州	379	111	△268
	ア ジ ア	6,731	5,198	△1,533
合	計	29,457	28,630	△827

四半期別 受注高推移 (商品セグメント別)



四半期別 受注残高推移 (商品セグメント別)



2020年12月期の通期連結業績予想及び配当予想につきましては、現在、世界各地で新型コロナウイルスの感染が拡大している影響から、商品、製品の納入時期や立ち上げ時期を予測することが困難な状況となっております。

このような状況から、現時点でその影響額を算定することが困難であるため、通期業績予想及び配当予想は**未定**としております。

なお、通期業績予想及び配当予想につきましては、算定が可能となった時点で改めて算定し、公表いたします。

- 当社グループにおける対応
 - 新型コロナウイルスの感染拡大に伴う対応についてガイドラインを設定
- 感染防止に対する当社の取組み
 - 時短勤務、時差出勤、在宅勤務の導入
 - 不急の国内出張の先送り、海外出張の延期
 - イベント主催、接待飲食の自粛
- 当社グループが属しているエレクトロニクス業界について
 - 5G、IoT、自動化に関連する電子部品や半導体、生産設備の需要は堅調に推移
 - 世界各地で感染が拡大している影響から、生産活動は先行き不透明な状態

配 当

	第2四半期末 (中間)	期 末	年間配当 (中間+期末)	当初予想	配当性向
2016年 12月期	0円	30円	30円	20円	27.4%
2017年 12月期	15円	30円	45円	30円	26.6%
2018年 12月期	20円	35円	55円	50円	26.8%
2019年 12月期	25円	35円	60円	60円	30.6%
2020年 12月期 予想	20円	未定	未定		未定

※ 1 2017年12月期より中間配当を実施

※ 2 2020年12月期の配当予想につきましては未定としております。

第9次中期経営計画(9M)



1 新グループ・ステートメント

Creator for the **NEXT**

エレクトロニクス業界を担う企業として、グループのネットワークを活かし、新しい価値をクリエイトする決意の表明

対外的メッセージ

「グローバルな観点で市場を捉え、お客様ニーズの一步先の価値を創造し、提供する」という意志を表明

社内的メッセージ

「常に次なる事業を創造し、さらなる成長のステージへ挑戦する」というスピリットを表明

N : Network

E : Engineering

X : (Synergy)

T : Trading

2 9Mスローガン

**「製販融合路線」により、
更なる成長を目指す**

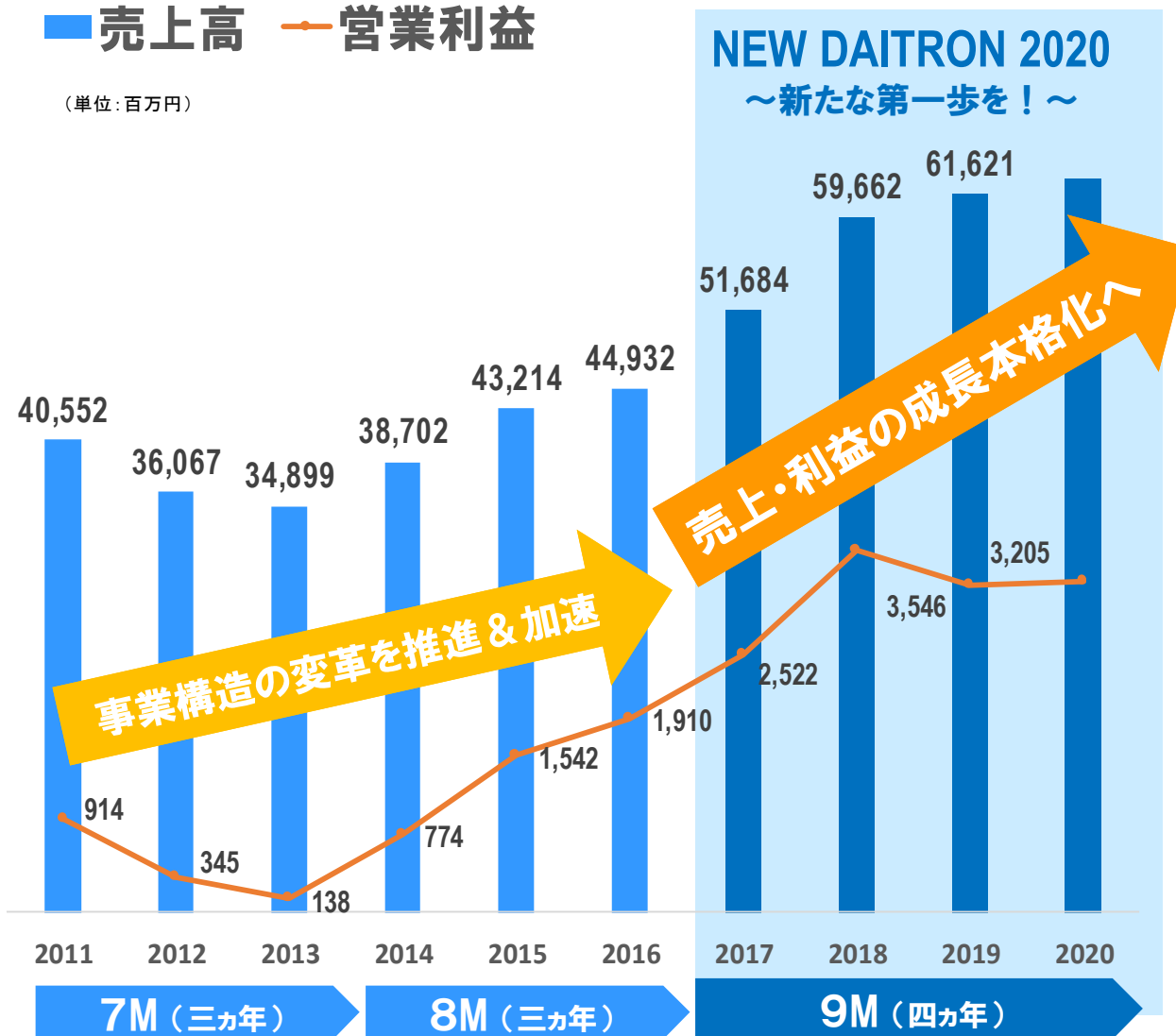
3 目指す姿

- **製販融合の、他に類を見ないユニークな企業**
 - 顧客から見た場合「頼もしく」、仕入先から見た場合「安心感」のある
 - 商社の「ダイナミズム」とメーカーの「可能性・着実性」を併せ持った
- **業界にとって、なくてはならない特徴ある技術・製品を有する企業**
- **社員にとって、働き甲斐があり、誇りに思える企業**
- **一致団結の強さと同時に自律能動的に動く組織**

1) 数値目標(連結)

■ 売上高 — 営業利益

(単位:百万円)



【2020年 数値目標】

売上・利益ともに
持続的な成長により
過去最高実績を越えて
更に先の成長を目指す

【目標とする経営指標】

自己資本比率

50%

(2019年:41%)

ROA

4%以上

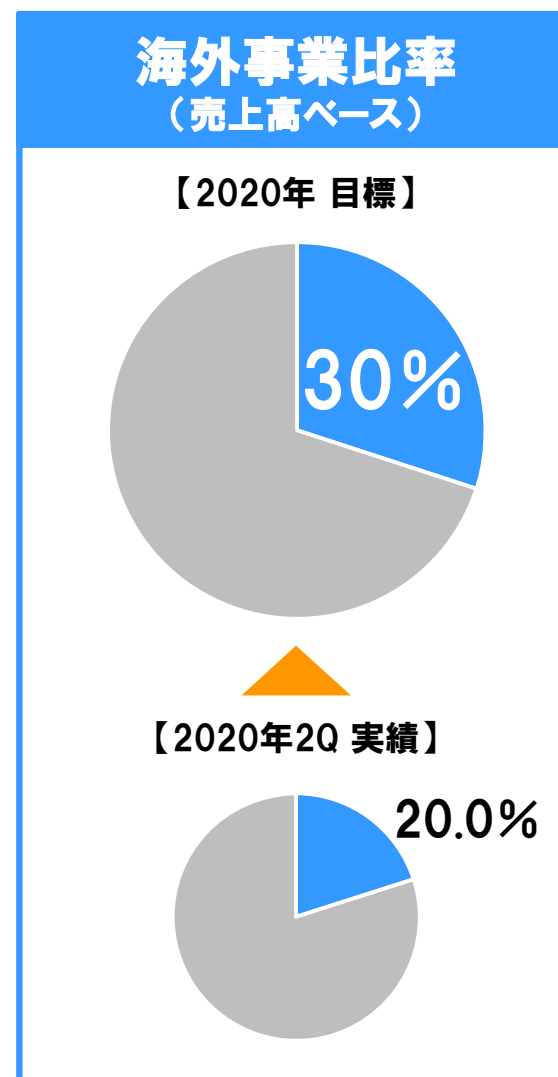
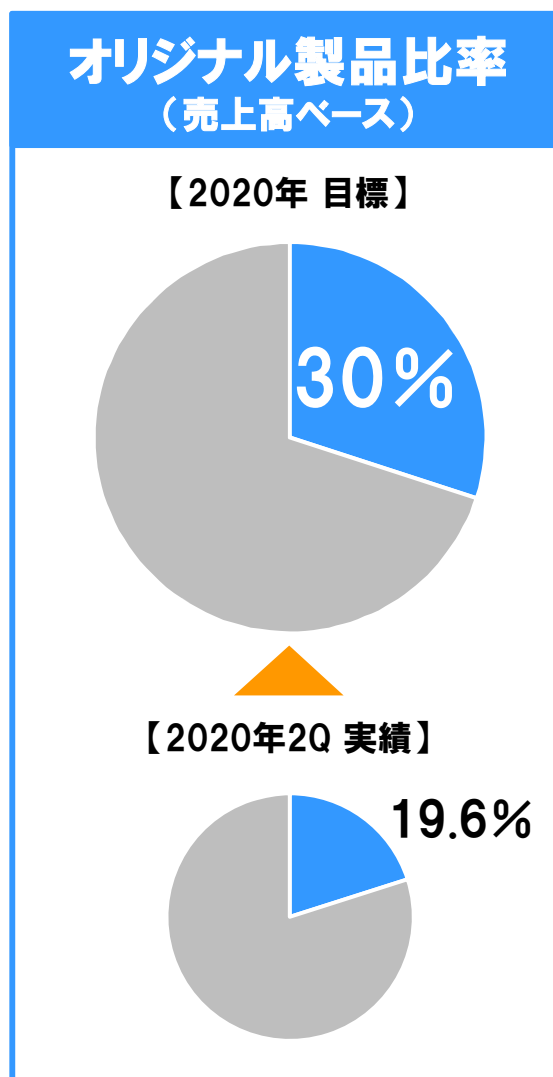
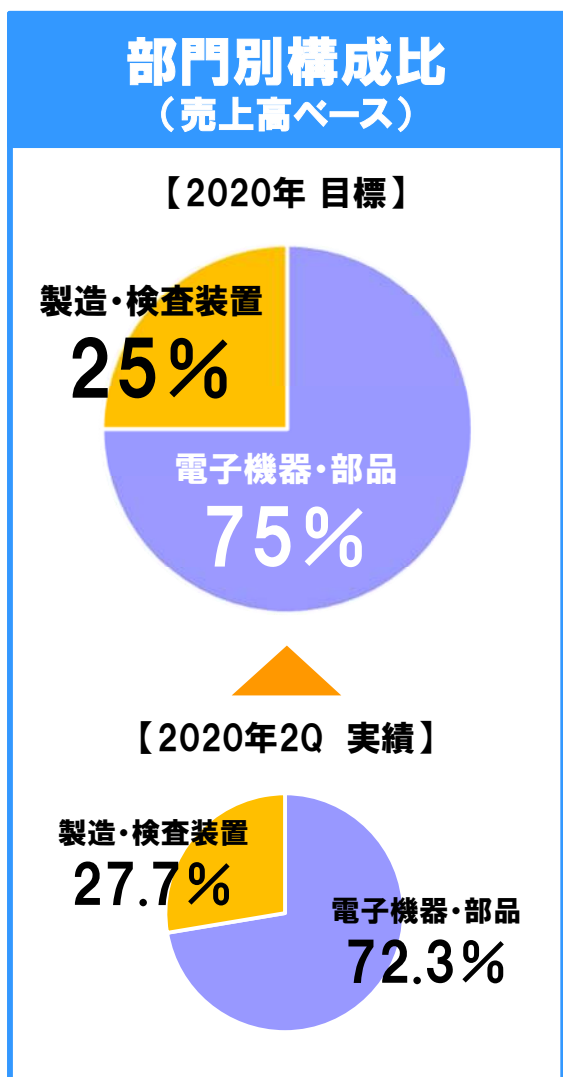
(2019年4.9%)

ROE

8%以上

(2019年:12.2%)

2020年(9M最終年度) 2)事業構造の状況(連結) **Daitron**



【基本方針】

**長期ビジョン(基本構想)の実現に向け
製販融合路線を目指す新たな枠組みのもとで
3社統合効果(シナジー)の最大化を図る**

【基本戦略】

- ① **成長性重視の事業再構築を推進**
- ② **オリジナル製品開発の強化**
- ③ **海外ビジネス展開の強化**
- ④ **マーケティング力&営業力の向上**
- ⑤ **生産部門の統合強化**
- ⑥ **組織力&人材力の強化**

2020年(9M最終年度)における各基本戦略のポイント①

1. 成長性重視の事業再構築を推進

- (1)オートモーティブ →ADAS、EV関連での事業拡大
- (2)メディカル →製薬業界、消耗品関連の事業拡大
- (3)ロボティクス →多様化するROB(サービス、介護、農業、他)への販促

2. オリジナル製品開発の強化

- (1)独自技術・現行ラインナップ製品のブラッシュアップ→付加価値アップ
- (2)新製品開発の強化(新分野)→D&P 製品開発部の充実した活動
- (3)仕入先との連携強化による準オリジナルラインナップの充実

3. 海外ビジネス展開の強化

- (1)部品ビジネスの拡大
- (2)地域独自の事業を開発
- (3)海外拠点間のビジネス連携の強化

2020年(9M最終年度)における各基本戦略のポイント②

4. マーケティング力 & 営業力の向上

- (1)競争力のある仕入先(商品)開拓により利益率の改善を目指す
- (2)顧客製品の販売によりリレーションを強化
- (3)複合的(システム)販売により付加価値の向上を図る

5. 生産部門の統合強化

- (1)機器工場・特機工場の収益力アップ
- (2)グループ会社の生産機能の強化(ダイテックと鷹和産業の合併)
- (3)生産性向上により付加価値を高める(利益率の改善)

6. 組織力 & 人材力の強化

- (1)ジョブローテーション、キャリアパス制度により人材育成や活性化を図る
- (2)リスクマネジメントの強化
- (3)新人事制度の運営 →65歳定年、評価制度の充実、教育の高度化

成長が有望視される
市場を開発



自動車



医療



インフラ



ロボット関連技術



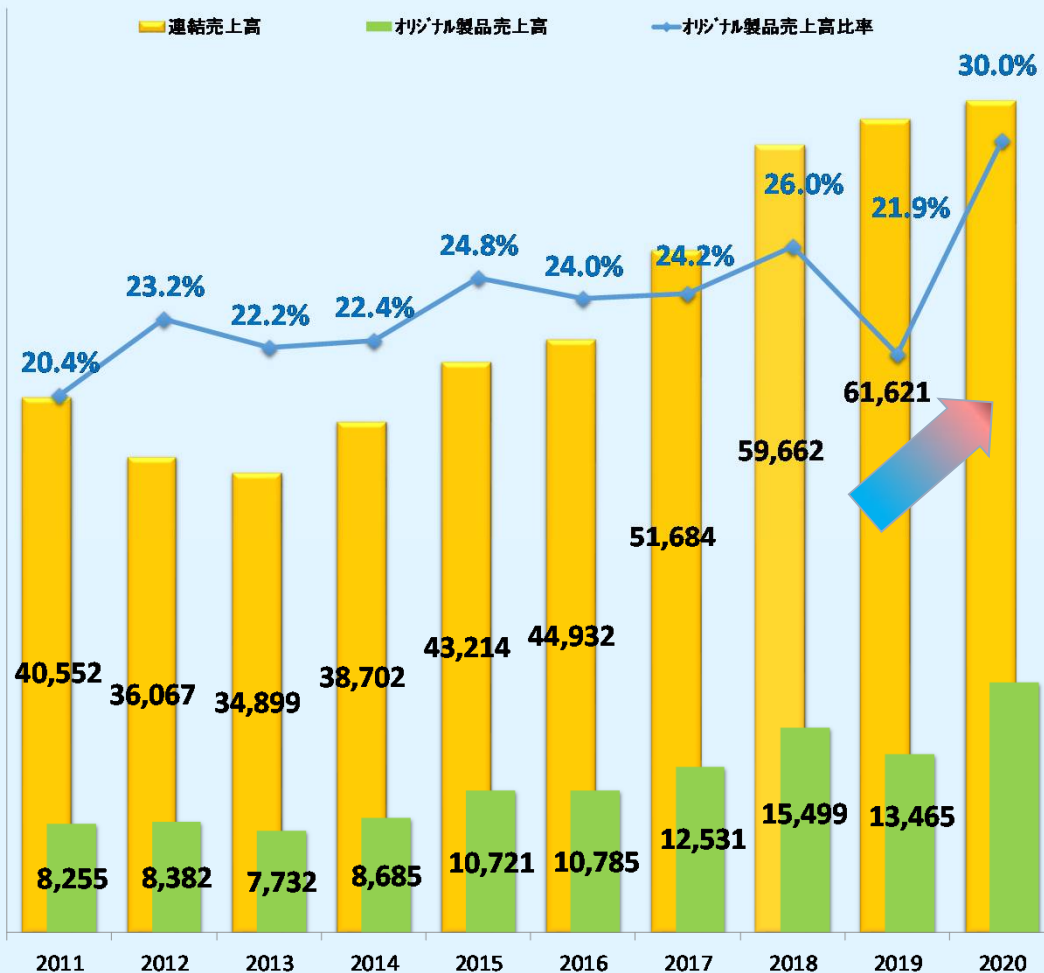
航空・宇宙

事業
再構築
を推進

安定的な
成長基盤

【基本戦略②】オリジナル製品開発の強化

単位(百万円)



9M

オリジナル製品比率
(売上高ベース)
2020年 30%を目指す

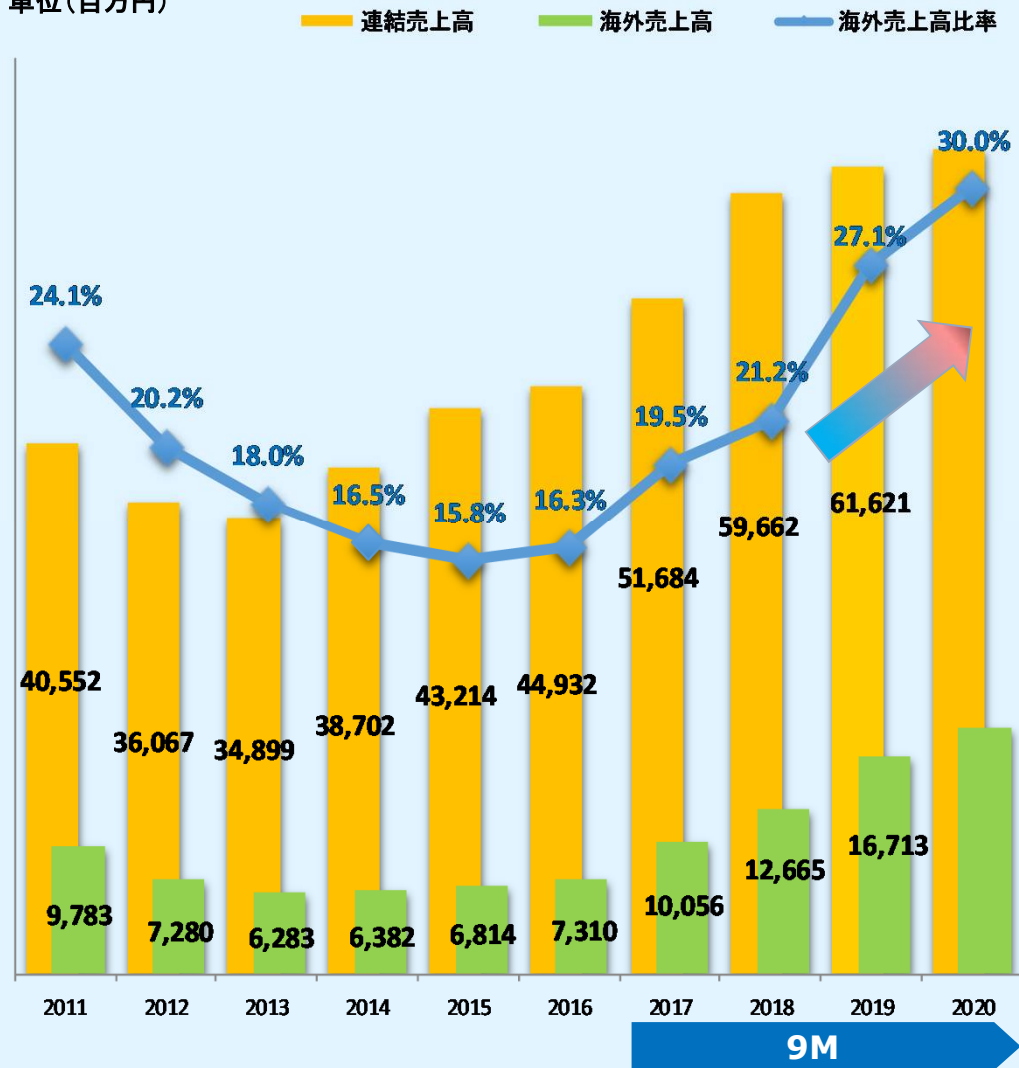
戦略ポイント

- ・ 独自技術・現行ラインナップ製品のブラッシュアップ
- ・ 新製品開発の強化（新分野）
- ・ 仕入先との連携強化による準オリジナルラインナップの充実

【基本戦略③】海外ビジネス展開の強化



単位(百万円)



海外売上高比率
(売上高ベース)
2020年 30%を目指す

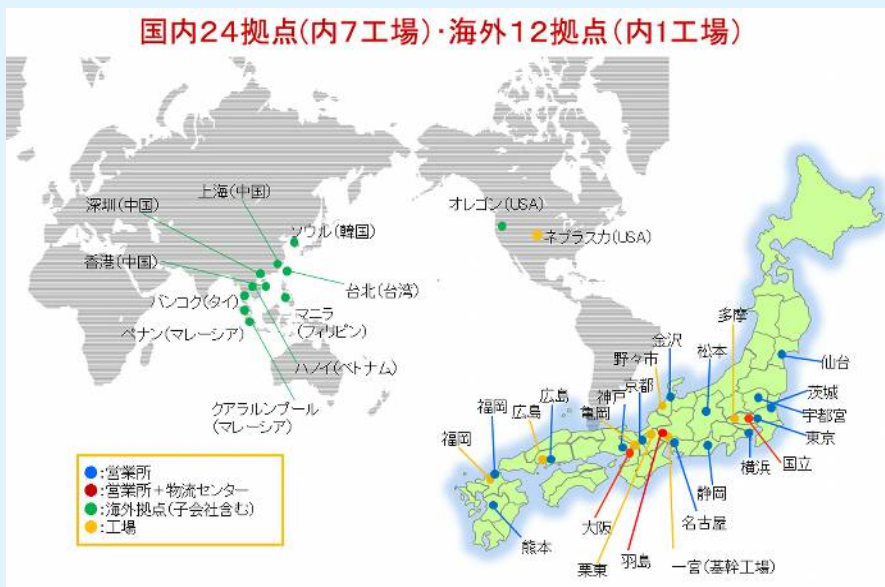
戦略ポイント

- ・ ローカル企業との取引拡大
- ・ 電子部品ビジネスの拡大
- ・ 海外拠点間のビジネス連携の強化 (アウトソーシングの拡大)
- ・ 地域独自のビジネス推進
- ・ ネットワークの拡充

戦略ポイント 1

国内外における販売ネットワーク拡充

- 【国内】 ● 東北地方 仙台(2019年1月設立)
- 四国地方 (調査中)
- 【海外】 ● ベトナム ハノイ(2019年5月設立)
- インド (調査中) ● 欧州 (調査中)

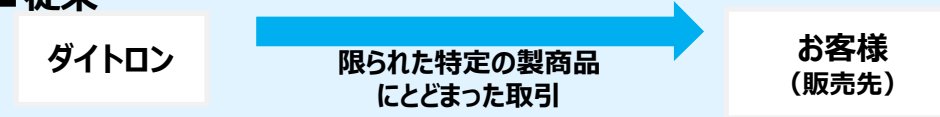


戦略ポイント 2

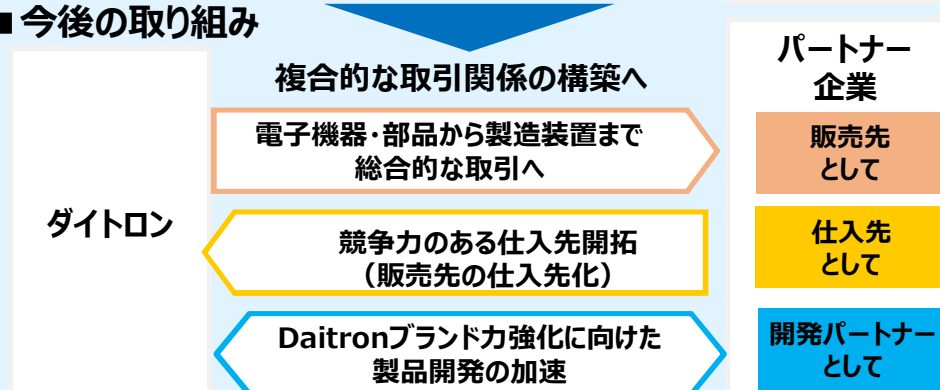
既存市場におけるプレゼンス向上

- お客様との複合的な取引関係を目指した取り組み

■ 従来



■ 今後の取り組み



中部工場 (愛知県一宮市)

ダイترونグループの
基幹工場として新設



**製造と開発の
中核拠点へ**



中部第一工場
2016年11月稼働

中部第二工場
2019年8月本格稼働

- **生産性向上による収益力アップ**
⇒生産体制(中部工場)の集約・効率化
⇒生産管理システムの導入(管理面)
- **グループ会社の生産機能の強化**
⇒ダイトテックと鷹和産業の合併

- 【第一工場】電子機器・部品関連生産体制
⇒ 2016年11月稼働
- 【第二工場】製造装置関連生産体制
⇒ 2019年8月本格稼働



製造装置の生産現場(中部第二工場)

技術で立つ会社へ

ダイترونグループは、
3社統合効果の最大化により、
製販融合路線による
エレクトロニクス業界の**技術立社**として、
独自の進化を目指してまいります。

この資料で述べられている将来の当社業績に関する見通しは、現時点で知りうる情報をもとに作成されたものです。

当社が位置するエレクトロニクス業界の電子機器・部品産業並びに製造装置産業は、テクノロジーの変化やスピードが大変速く、競争の激しい産業です。また、北米やアジア諸国の経済情勢など、当社の業績に直接的・間接的に影響を与える様々な外部要因があります。

従いまして、今後、当社の業績の見通しが本資料と異なる可能性があることをご含みおき下さい。

《本資料並びにIRに関するお問い合わせ先》

経営管理部 IR担当

TEL: 06-6399-5952

FAX: 06-6399-5962

e-mail: info.ir@daitron.co.jp